

大強度陽子加速器施設 (J-PARC) 中間評価にあたっての主な論点について

(1) 前回中間評価(平成30年6月)の指摘事項への対応状況

① 評価のまとめより

(施設の整備・運用)

- 国際競争の状況や財政環境、施設の効率的な整備・運用等も考慮した中長期的な戦略の検討も含めた、十分なビームタイム確保と、所期目標のビーム強度の早期達成・出力増強に向けた取組状況はどうか。
- 生命科学用実験装置の整備について、重要な研究開発課題やイノベーション創出を加速する仕組等の検討状況はどうか。

(施設の運営)

- 施設運営に「経営的視点」を取り入れ、経年劣化対策や更なる財源の多様化、施設の高度化に向けた重点投資等を一体的に検討した中長期的な経営計画を策定し、施設の経営基盤を強化しているか。
- J-PARCとしての一体的な組織運営やオープンアクセスの推進の検討状況はどうか。

(中性子・ミュオン利用の振興)

- 日本全体の中性子・ミュオン利用の振興に係る課題(成果創出、人材育成、産業利用、国際化など)について、大学、施設、企業等の組織横断的に議論する場を提供し、その中核として主導的役割を果たしているか。
- MLFにおける共通基盤技術等の一元管理、定型業務の外部委託、共用ビームタイム枠の導入など、利用者の利便性向上に資する取組状況はどうか。
- JRR-3、中・小型中性子源等の他施設との連携によるコミュニティ全体としての施設間の申請課題の連携、人材育成等の検討状況はどうか。
- IR(論文分析を含めた研究力分析、ベンチマーク)による研究組織評価や、MLFの特長を適切に評価できる指標の検討を行い、課題審査等に活用しているか。

(施設安全)

- 安全文化の醸成、安全管理体制の不断の見直し、地元住民・国民全体からの理解促進、J-PARCが広く開かれた施設となるような活動状況はどうか。

(将来に向けた高度化等)

- 将来的なニーズや国際動向を見据えた施設・設備の高度化や施設の更なる効率的利用方法等についての検討状況はどうか。

② その他指摘事項

- 競争領域と非競争領域の研究開発を柔軟に実施できる体制の整備も含めた「組織」対「組織」の本格的産学連携
- 高度な解析サービスの導入等の学術・産業の利用者視点に立ったサービス提供
- ミュオン施設の整備状況（Sライン・Hラインの整備推進）
- ハドロン施設の整備状況（学術コミュニティのニーズを踏まえた整備計画の推進）
- 核変換施設の整備状況（技術蓄積等の基礎研究、国際協力や計算科学の活用等により合理的・効率的な進め方の検討状況）
- 国際研究拠点となるための方策
- 高度研究人材の育成や利用者の開拓、異分野研究との連携の促進
- 費用対効果の高い広報の実施
- 登録施設利用促進機関の取組状況
- 共用施設における評価指標の検討

(2) 新たに取り上げるべき論点

- 既存施設の高度化
- 老朽化対策
- 経済安全保障、戦略分野（半導体・GX・DX・CE等）の推進
- 物価高・燃油高騰への対応

等